

# 「持ち主」はどんな人だった？

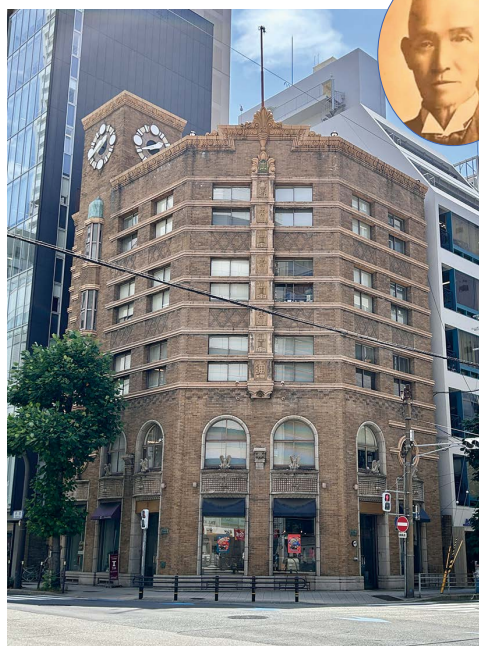


ナカノシマ大学2026年10月講座

イケフェス大阪で大人気の名建築を深掘り



左／青山ビルの蔦は甲子園球場から株分けされた。人物は、戦後まもない頃に施主の野田源次郎氏から建物を譲り受けた青山喜一氏。紙面の背景は竣工時の図面 右／1世紀近く堺筋平野町の顔・生駒ビルディングと、竣工時の施主、生駒権七氏



**10/14 (水) 18:00~19:40 (17:30開場)**

会場 **芝川ビル4階モダンテラス** (中央区伏見町3-3-3/地下鉄淀屋橋駅11号出口徒歩1分)

受講料 **2,500円** (学生1,500円) ※学生証を提示 定員 **60名**

講師 **陸奥 賢** (観光家、コモンズ・デザイナー)

主催 ナカノシマ大学事務局 (株式会社140B) 協力 芝川ビル

**近代建築の名作を「建築家」「デザイン」ではなくオーナーという「人」で見る。**

「生きた建築フェスティバル大阪2026(イケフェス大阪2026・10月24日・25日)」の「看板建築物」であり、船場の近代建築を語るうえで不可欠な青山ビル(竣工・1921年)と生駒ビルディング(同1930年)が今回のテーマ。「あの建物を発注したのは誰?」「一度も建て替えずに1世紀残ったのはなぜ?」について、まち歩きの人である陸奥賢さんが「持ち主」を通してこの大阪の宝をご紹介します。

会場は、こちらも同時代(竣工・1927年)の芝川ビル。現オーナーもゲストに登場!

〈講師からのメッセージ〉

毎月、青山ビルにて講師の玉田玉秀斎氏と「船場講談」を実施しています。船場にゆかりのある人物の意外で衝撃的、かつ知られざるエピソードを語っているのですが、今回のナカノシマ大学では船場が誇る名建築「生駒ビルディング」と「青山ビル」にまつわる人物伝をお話させていただきます。

ビルのオーナーやビル内で活動・活躍していた人物を紐解くことで、船場という都市の歴史、文化、物語が浮かび上がっていきます。ぜひともお楽しみに!



講師の陸奥 賢さん

むつ・さとし 観光家、コモンズ・デザイナー、社会実験者。1978年大阪・住吉生まれ、堺育ち。2007年に堺のコミュニティ・ツーリズム企画で地域活性化ビジネスプランSAKAI賞受賞。2008〜13年大阪あそぶプロデューサー。大阪七墓巡り復活プロジェクト、まわしよみ新聞(読売教育賞最優秀賞受賞)、死生観光トランプなどを手掛ける。福島県いわき市の「いわき時空散走」、宮崎県えびの市の「えびの時空散走」でプロデューサーを、大阪市立生涯学習センターで「大阪の魅力発信コース」主任講師を務める。著書に「まわしよみ新聞をつくらう!」(創元社)。

※会場では、イケフェス大阪2026の公式ガイドブック『OPEN HOUSE OSAKA 2026』(9月30日発売予定・定価1,300円)を販売します。お楽しみに!



→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は11月20日(金)18時予定……「料理家・小林カツ代が広めた、大阪人「おいしい」の真髄(6月講座延期分)」  
講師=本田明子(料理研究家・NHK「きょうの料理」講師)



# 青山ビルと生駒ビルディングの